

第42号

# 伊予野丘

発行人  
 国東高校伊予野丘  
 同窓会  
 〒873-0502  
 大分県国東市国東町田深469  
 TEL 0978-72-0604  
 FAX 0978-72-0604  
 (事務局長 西田節男)



## 令和四年度 定時総会 開催さる

武漢発新型コロナウイルスパンデミックが始まって三年経過して尚収束(終息)が見えない中、今年は予定通り5月28日(土)に例年通りホテルベイグランドで開催されました。余りに長期間のパンデミックに、「ウィズコロナ」をせざるを得ない状況でした。

それでも参加者は昨年を上回り、75名もの出席者がありました。主な議論は、貸付奨学金未償還金三百万円の問題と現国東高校の強化三部への助成金の件でした。前者については、これまで回収努力をしてきたものの、連絡先も不明なものが殆どであることから、今年度一杯回収努力の後、来年度は損金扱いにしたいという執行部提案に対し、やはり回収を断念するのはおかし、努力を続けるべきだとの意見があり、今後の方針については理事会で検討することになりました。

また後者は、昨年も記念講演を廃してまでの長時間議論をした問題であり、執行部としては



予算を組まない提案でしたが、この件についても、昨年同様現国東高校は地域にある我々の後輩であり支援するべきではないか、という意見が出されました。

執行部としては現在の国東同窓会や保護者の自助努力がよく見えない中での支援は、あるべき姿ではない(本来は支援したいが)という考えでの提案であり、今後は現国東高校同窓会とよく連絡を取って考えたいということで、結局今年度予算には組まないこととなりました。この外、来年度は創立百周年記念事業を組むことなど事業計画が了承され、予定時間を少し過ぎましたが、新会長のもと無事に総会を終了しました。



総会終了後、藤原龍司氏(高35回生)に「防災から始まる地域づくり」と題しての講演をして頂き、出席者一同熱心に聴講しました。

その後3年振りにかなり多くの方々(65名)が懇親会に出席して楽しい歓談の時間を過ごしました。その後有志約20名川口屋に場を移しての交歓をして親交を深めました。

# 母校創立百周年を迎えて

伊予野丘同窓会会長

宮本 季生



コロナ禍は願っても空しく、ここに来て第8波の感染が急速に拡大しています。コロナ禍は間もなく三年になります。この三年間社会も経済も翻弄され、その影響は甚大なものとなっています。

このような状況の中で、これまでも述べてまいりましたが、国東高等学校は母校であります旧制国東中学校と国東高等女学校が大正11年4月に創立されてから、今年100周年を迎えました。この100年間に多くの方々が卒業され、いろいろな分野で活躍されて立派な業績を残されました。また、現在も活躍中の方も沢山おられます。

これまで、伊予野丘同窓会はこの先輩の方達の残された輝かしい伝統を守り活動して来ました。これからもこの伝統を守り同窓会が会員の方々の楽しい集いと語らいの場として存続できますよう願いを込めて100周年を祝いたいと思います。



ですが、現在の私どもにはこれまでのような大掛かりなことはできませんが、簡素ではあるが心のこもった記念事業を行ないたいと思っています。

また、現伊予野丘同窓会は会員の高齢化が進み会員が年々減少しています。将来が大変危惧されます。同窓会が末永く存続するためには若い人達の参加がぜひ必要です。この思いから、現在の国東高校同窓会と伊予野丘同窓会を統合して一体とすべく、準備を進めて参ります。

すでに東京同窓会では現在の国東高校を卒業された方々や双国高校、国東農校を卒業された方々が参加されています。伊予野丘同窓会も早く東京同窓会のようになることを願っています。会員の皆様のご支援とお力添えをお願いする次第です。

## 講演

### 防災から始まる地域づくり

～災害が発生する前と後～

藤原 龍司



近年、「異常気象」という文字が世の中に蔓延し、その影響もあつてか夏といえば気象災害の発生が年中行事化しています。また、地震大国といわれる日本は南海トラフ巨大地震の発生も懸念されています。

令和3年5月、国民の生命と生活を守るために災害対策基本法が改正されました。これは令和元年台風19号の被災状況を踏まえて避難情報と広域避難の在り方に関する改正で、それまでは避難勧告という言葉が使われていましたが、避難指示と避難勧告が同じレベルで前後して発令されていたため混乱を招くという事で避難勧告という文言が削除されました。

災害が身近なものとなつてしまった日本国民にとつて災害に強い地域づくりに取り組む必要があります。それでは「災害に強い地域」とはどんな地域でしょうか？！  
誰も住んでない広大な山野で土砂崩れや洪水が発生してもほとんど報道されません。災害とは、社会生活が破壊され尊い命が失われるから「災害」なのです。  
災害に強い地域をつくるにはまず地域住民それぞれが自分の命を守る行動に徹することが大切です

が、地域には自力避難できない方も暮らしています。そこで求められるのは地域住民同士の支えあい助け合い活動です。災害や防災の知識やテクニクを学ぶことも大切ですが、一番大切なことは地域住民一人ひとりが福祉の視点を持つということ。そして、防災意識の向上を促すための啓発活動の実践です。

支えあい助け合いの充実した地域こそが災害に強い地域となります。地域住民一丸となつて次の災害に備えましょう。



4/23

伊予野丘同窓会  
常任理事会 (川口屋)



定期総会(5月28日)に先立ち、令和4年度の常任理事会が4月23日午後5時から川口屋で開催されました。宮本会長の挨拶の後、直ちに議事に入りました。昨年度の事業並びに会計報告及び監査報告の後、本年度の事業計画と予算案が提示され、質疑が行われました。議論されたのは主に2件で、ひとつは奨学金貸付一人25万円、12名(計300万円)未回収をどう処理するのかということ、もうひとつは現国東高校強化3部(柔道・野球・バレー)への補助金についてでした。前者については、本年度も連絡に努め催促するが、不可能であれば損金扱いにすること、後者については、当事者(保護者)の努力がよく分からない中での補助はスジが通らないので、削除することになりました。



# 創立100周年 記念総会

## 令和5年5月27日(土曜日)

主な予定行事をお知らせします。是非予定に組んでください。

### 記念講演



元駐ジャマイカ大使  
中野正則氏

昭和46年国東高校卒(23回生)  
早稲田大学法学部卒。

- 1976年外務省入省後、外務本省においてはアジア局(南西アジア課、大洋州課)及び経済協力局、在外においてはスリランカ、米国、エジプト、インド、ジャマイカの日本国大使館(米国、インドでは総領事館)に勤務。
- 2002年より民間援助支援室及び人道支援室の各首席事務官、大洋州課地域調整官、衆議院事務局渉外課長  
2011年4月から2015年2月まで在チェンナイ(インド)総領事、2015年4月から2017年10月まで駐ジャマイカ特命全権大使(バハマ、バレーズ両国を兼轄)。2015年よりジャマイカに本部を置く国連国際海底機構の常駐代表を兼任。
- 2013年国賓としてインドを訪問された天皇皇后両陛下(当時)をチェンナイでお迎えしたほか、2015年安倍総理によるジャマイカ初訪問の準備・受け入れに携わった。  
2017年11月退官。
- 現在、日本ジャマイカ友好協会会長を務めるほか、横浜在住の外国人に対し日本語を指導。

### アトラクション

#### 詩吟

「国東に題す」

橋本政二氏(12回生)



#### 日本舞踊

秀山会 会主 佐伯治美氏ほか



#### キッズダンス

トモダンススクール 主催 足立朋子氏ほか



### 日本ジャマイカ友好協 初代会長に就任

中野正則さん 国東出身

「大分との橋渡し役に」

国東高、早稲田大卒業して外務省に入省。スリランカ、米国、エジプト、インドで勤務した経験がある。15カ月から1年10月まで、同じカラブ海のバハマ、バレーズの大任を併任する駐ジャマイカ特命全権大使を務めた。

大使の時から国交を進めようという思いがあった。国交を深めるには、民間交流や観光客の受け入れ、日本の青少年に海外志向を

国東高、早稲田大卒業して外務省に入省。スリランカ、米国、エジプト、インドで勤務した経験がある。15カ月から1年10月まで、同じカラブ海のバハマ、バレーズの大任を併任する駐ジャマイカ特命全権大使を務めた。

大使の時から国交を進めようという思いがあった。国交を深めるには、民間交流や観光客の受け入れ、日本の青少年に海外志向を



2022年10月6日大分合同新聞

その他、歌謡やくじ引き等のイベントを計画中!!

来年度早々に案内文を発出します